

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホーム ゆいとり

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900425		
法人名	社会福祉法人つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム ゆいとり		
所在地	〒021-0041 一関市赤荻字月町17番地		
自己評価作成日	令和4年8月20日	評価結果市町村受理日	令和4年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「利用者主体の普通の暮らし」「その人らしい生活」「地域住民と共生できるホーム」を理念としています。一関インターを下り北東にある白い建物が当施設です。隣には同法人のデイサービスセンターがあり、当施設の周辺には、コンビニエンスストア・スーパーセンター・薬局・ホテル・飲食店等があり、日常生活に便利な場所にあります。また施設内からは、田んぼや、花畑、山が見渡せ季節が感じられます。コロナ感染予防の為、面会や外出の制限がある為、利用者さんの健康維持や機能の低下防止に、ニギニギ体操・健口体操・頭の体操等、毎日の活動に取り入れ楽しんで頂けるように取り組んでおります。地域の方々は、馴染の関係が出来支えられ受け入れて頂いています。また家族や、利用者さんの思いを汲み取りより良い信頼関係を築いていけるように努め対応しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周辺に大型ショッピングセンターやホテル、飲食店などが隣接する一方、コスモス畑や田畑などもある環境的に恵まれた場所にある。職員は、施設の理念に基づき毎年個々に「個人目標」を立て、施設としての「努力目標」と「実施細目」に沿って業務に従事している。また、「連絡ノート」により情報を共有し利用者の支援に役立て、職員が作成している隔月発行の「ゆいとりだより」は、利用者の家族や地域の方々へ情報提供し好評である。コロナ禍で家族の方々の面会など外部の人との接触が制限される中でも、隣人からの雪かきの手伝いや手作り人形や野菜の差し入れなど、日常的な交流は継続されている。利用者の外出機会が少なくなっているため、職員は屋内で楽しめる活動(ゲームや体操等)や食事に工夫をこらし、いきいきと楽しく過ごせる支援に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年10月5日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム ゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、理念に沿った施設としての努力目標、実施細目や個人の目標を立て、目標達成に取り組んでいる。運営理念・努力目標は、食堂内に掲示し意識するように努めている。	運営理念の「利用者主体・個人の人権保護・地域住民との共生」の3本柱を基に、各職員が年度末に個人目標を作成し、施設としての努力目標・実施細目を立て、業務の方向性等を定め支援にあたっている。運営法人は、努力目標等について、毎年度業務報告書を作成し、周知と見える化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防の為、地域の夏祭りや踊りのボランティアも中止となったが、雪かき作業や地震時の見回りなどの声がけ等、都度協力を得ている。他にも季節の野菜や、手作りの人形を頂いたり、利用者さんに窓越しに声を掛けていただく等の交流がある。年6回施設の広報誌を発行し地区の回覧版で活動をお知らせしている。	コロナ禍ではあるものの、地域との交流は日常的にあり、隣人による雪かきのほか、隣地の花畑を四季折々の花で楽しませてくれたり、地震時の見回り、野菜や手作り人形の差し入れ、散歩時の声掛け、加えて2か月に一度床屋のボランティアにも来ていただいている。自治会区長の配慮により、事業所広報誌「ゆいとり」(年6回発行)を回覧していただき、事業所の状況を地域にお知らせしながら、相互に良好な交流が今も続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌「ゆいとり便り」は年6回発行。利用者家族や地区の方々へ回覧板で回して頂いている。施設の活動状況を中心に認知症の豆知識を載せ 認知症についての理解を深めて頂けるよう発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ感染予防の為、資料提出のみとなっている。委員の方々への資料は、直接手渡ししており少しでもコミュニケーションを取れるよう行っている。	コロナ禍のため隔月で今年度は3回書面開催としている。自治会区長、民生委員、保健推進委員、消防団、駐在所、広域行政組合(隔年交代で市の担当課)、利用者、家族を委員に委嘱している。委員の方々には行事や活動、受診・面会、事故の発生状況などの資料を直接手渡し、その際意見を伺うようにしている。	運営推進会議は、現在資料提供のみとなっており、各委員から意見等を聴取するなどの機会がなく、各委員の意見を伺う方法として意見聴取のための様式を作成し、資料提供時に説明のうえ意見等を提出いただく工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ予防接種の説明会参加 事故報告提出(fax) 又 住所変更に係ることなど不明なことなど 都度 相談に応じて頂いている。	市主催の説明会に出席したり、事故報告や介護保険の届出等の問い合わせや相談に応じてもらっている。コロナ禍前は市の介護相談員の訪問があり利用者と面談もしていた。市と相互の連携は確立されている。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム ゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会は年4回開催実施(5月 8月 11月 2月予定)。身体拘束についての研修も年2回行う予定。年間を通して全職員が身体拘束研修会に参加できるようにしている。身体拘束を行った事はなく 研修会はレジメから拘束となる事例を考える機会となっている。夜間は 防犯の為、外・内玄関の施錠を行っている。	職員は身体拘束の廃止についてよく理解している。指針を作成し、全職員が委員となり委員会を年4回、研修は年2回実施している。身体拘束は無いが、転倒、転落の心配のある利用者1人が離床センサーを利用し、皮膚の弱い利用者1人がアームカバーを利用している。スピーチロックにも気を付けている。近隣に動物が出没することがあるので、夜間は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	人権擁護・虐待防止委員会年4回実施、(5月、7月、10月、1月予定)虐待防止の学習会も年2回行う予定。利用者さんに処方された精神薬が合わず動きが悪くなったため、病院に報告し薬を中止してもらったことがある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止と一緒に委員会を行い、施設内学習も行っている。利用者さんの人権や尊厳について理解を深められるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分な説明を行い、内容を理解・納得して頂けるように努めている。介護報酬改定や利用料金の変更の際は、コロナ感染予防の為、説明会を開催できる状況になく郵送し承諾を得ている。また家族からの相談・質問にも都度対応し理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染予防の為、家族の面会も減っており、又 運営推進会議も開けない状況であるが、家族の来所時や、電話で意見・要望を聞き把握するようにしている。広報誌「ゆいとり便り」も年6回発行し地域の方々に施設の理解を頂き、要望や気付いたこと等、意見を頂いている。	ほとんどの利用者は自分の言葉で意思を伝えることができ、職員は日常の会話や行動を通じ、意見や要望を把握している。家族とは面会や電話で状況を報告した際に、意見要望を伺っている。利用者からは、手伝いや食事の献立(はつとやおはぎ)の要望が多い。家族からサプリメントを飲ませて欲しいとの要望があり対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議では、行事の反省や、次回に向けての取り組み・改善点を話し合っている。日常の職員の意見や提案・連絡等は、「連絡ノート」を用いて、職員全員が確認し内容を把握できるようにしている。	「連絡ノート」に職員が日ごろ思っている意見や提案を記載している。毎月開催する職員会議でも意見等が出されている。管理者による年1回の個人面談で、夜勤ができる職員の増員要望があるが、実現に苦慮している。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム ゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や賞与・年次休暇があり仕事のやりがいに繋がられている。勤務希望も可能な限り希望に沿うように組んでいる。介護休暇なども柔軟に取れるよう調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染予防の為、外部研修等の参加が大幅に減り情報交換の場がなくなっているが、認知症実践者研修・介護支援専門員の更新研修に参加予定。その他毎月の施設内学習会・歯科医師による口腔ケア研修会に参加、委員会も担当を割り振りし、定期的に委員会と、学習会を開催しステップアップを勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で、アメーバ経営に取り組み、毎月事業所ごとの取り組みの発表と、年1回全事業所の年間を通じた取り組みの発表会に参加し、意見や情報交換を行い、お互いの施設のサービス向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅等(利用施設)に訪問させて頂き生活環境や体調面を把握するようにしている、ご本人の不安のない様に、ご家族または、利用施設の職員と一緒に話を聞き意見、要望、思いを共感できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談事に応じたり、不安に感じている事を伺い家族の意向・要望・思いを共感できるように努めている。また入所の為、指定地域密着型サービス事業所等の指定条件に係る適用除外申請書を広域に申請、認定して頂いた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コロナ感染予防の為、施設内の見学は出来ないが、パンフレットやゆいとり便り等で施設内の活動や様子を説明している。利用申し込み時の内容から、地域や、同法人のサービスの紹介も行っている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム ゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれの力量に応じた活動、作業を一緒にしながら、コミュニケーションをとり都度、感謝の気持ちを伝えている。作業も役割として、習慣化され意欲的に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りに写真を添え、生活の様子や体調などをお知らせしている。体調に変化のある時は、通院の相談や通院後の報告等行っている。希望時や連絡事項で家族に電話する際には、電話に出てくださいと話ができるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防の為、面会の制限や面会の禁止をしなければならない状況にある。通院時に姉妹と同じ予約日にし、顔を合わせられるように図っている。廊下の窓越しに散歩中のなじみの近隣の方と声を掛けたり掛けられたりして会話を楽しんでいる。	コロナ禍のため、家族との面会や外出の制限、ボランティアの受け入れの休止により、馴染みの人との関係継続が難しくなっている。そのような中でも、家族の面会、散歩時の住民との立ち話、親族と診察日を合わせての通院などを大切に、関係が途切れない支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や相性を把握しながら、利用者間の関係が良好に保てるように、座席等考えフォローしている。また、廊下に置いているソファが、利用者さん同士のふれあいの場となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られたり、入院の為退所された利用者の方には、様子を伺うようにしている。相談事がある場合には、都度対応をしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でコミュニケーションを積極的にとり、本人の思いや希望を汲み取る努力をしている。ケアプラン作成時はセンター方式や、ひもときシートを活用し生活状況・体調・表情・行動等の情報を収集しケアプランに反映させている。	自分の思いを話せる人7人、聞き方の工夫により把握できる人2人と、会話により利用者の意向を把握することができている。さらに、センター方式やひも解きノート、入浴時のリラックスした時の会話を通じて意向を把握している。把握した意向は、業務日誌へ記載し職員間で情報共有している。	
----	-----	--	--	--	--

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム ゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族・居宅のケアマネから生活歴等の情報収集をしている。入居後も家族・本人から詳しい情報を得られるようにしている。また、日々の活動の中から、暮らしや生活環境等の情報を引き出すようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりを尊重し、コミュニケーションを取り合う中から個性や状態を把握し、出来る事、出来ない事を見出すようにしている。また、日常生活の中で力が発揮できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望・要望や必要な支援等を把握しケアプランを作成している。毎日のケア記録・ケアチェック表から毎月モニタリングと、ケアプラン開始の2～3か月後には、中間カンファレンスを行っている。ケアプランは、6ヶ月毎に作成しているが、状態の変化に応じてケアプランの内容の変更を行っている。	ケアプランは、家族や本人の意向等も盛り込み、1か月ごとに見直しをしている。毎月モニタリングを行い、モニタリング表でチェックをしたうえで、全職員でケアプランの進捗状況を共有している。職員会議時にケアプランの内容について協議し、家族の希望も確認のうえ、6か月ごとに見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を観察・記録し毎日のケアチェック表で確認している。職員間の気づきや対応の変更・継続・工夫等を連絡ノートや申し送り情報で共有し、意見交換・ケアの統一をはかり、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の状況から個別の買い物・通院の支援(移送・同行受診・代理受診..)等を家族と相談しながら行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	屋根の汚れを教えていただき屋根の洗浄を行った。また地域の方より市役所から、融雪剤を無償で頂けるとの情報提供あり、融雪剤を頂く事が出来た。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム ゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、在宅から継続している。状態の変化により通院先の変更をする際は、家族と相談し決めている。家族の都合に合わせて職員対応で受診を行っている。現在コロナ感染予防の為、変化のない方は出来る限り代理受診を行い、日頃の様子を細かく伝え指示を受けている。	利用者全員が、入居前からのかかりつけ医を受診している。2人が家族付添で通院し、7人が職員付添で通院している。通院時は、バイタル記録と症状等の変化についてメモを持参している。付き添いした家族から通院時の様子について聞き取って記録している。非常勤の看護師が利用者の健康管理や通院付添を担当し、職員にとって心強い存在である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回半日出勤の際には、利用者の状態報告を行い、必要な処置や通院等の相談や、指示を受けている。また利用者さんの状態に変化のある時には都度、電話連絡を取り合っている。必要な時には、通院や救急搬送の対応を行っている。体調悪化が心配される場合には、家族に説明や、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院へ必要な情報を提供し、本人・家族が混乱しないよう支援している。家族・病院の医療相談員さんと連携し、入院中の状態を把握できるように求め、退院後のケアや環境整備等の対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設として出来る事、出来ない事を説明し、次の段階に繋げられるように対応をしている。骨折し車椅子使用になった利用者家族の希望で、同事業所の特別養護老人ホームの相談員と連携、特別養護老人ホームへ移動・入所する事が出来た。	看取り指針を作成し、家族・利用者から希望があった時に説明している。同一法人の特別養護老人ホームへの住み替えなど、利用者の状況や家族の希望により対応しており、今は、看取りを希望している利用者はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による緊急時の対応(AEDを使用した研修)実施、看護師による応急処置講習を予定している。急変時には、看護師に応援依頼し、指示や応急手当、救急車の搬送要請等の協力を頂いている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム ゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、隣接するデイサービスと合同で総合防災訓練を行っている。夜間想定避難訓練で足元が暗い事でスロープ2か所と、裏口に1か所センサーライトを設置した。自動火災通報器の連絡網に地域代表の方を登録し協力をお願いしている。6月の夜間の地震時近隣の方が様子を見に来てくれた。	ハザードマップの指定地域となっていないが、隣接する同一法人のデイサービスと合同で、年2回総合防災訓練を実施している。消防署の立会はコロナ禍で控えているが、設備会社には立会ってもらっている。夜間想定訓練時に照明が必要なところ(2カ所)が確認され、照明を設置した。自動火災通報先に区長に入ってもらい協力を得ている。近所の方も何かと気にかけてくれ、地震のときも様子を見に来てくれている。一週間分の米、水、パン、クラッカー、レトルト食品を備蓄し、炬燵・ストーブは3台ずつ保管している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの個性を理解し、プライバシーに配慮しながら本人に合わせた対応している。トイレの誘導や入浴介助時には、羞恥心を感じさせないような声掛けをするように気をつけている。	利用者それぞれの個性を尊重し、丁寧な対応に努めている。利用者のトイレ利用は、利用状況が分かる記号等で職員間で確認合っている。排泄誘導時は他に気づかれないよう気配りを心掛け、プライバシーには十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会のメニュー・おやつ・飲み物の選択、出来る方には入浴の準備(衣類の用意)、毎日の活動では、ドリル・塗り絵など用意しておき好きな物を選んでもらう等の選択を、日常で行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動には、皆さん楽しんで参加されている。気乗りせず居室で過ごされる方もいるが、本人のペースで過ごしてもらっている。玄関先での日向ぼっこや、廊下のソファでの井戸端会議等それぞれが楽しく過ごせる場所があり、その時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や、行事の際には、その場に合った服装をさりげなく勧めている。入浴後の着替えも自分で用意して頂いたり職員が聞きながら行っている。2か月に1回馴染の床屋さんで散髪をして頂いている。1名は馴染の美容院で2か月に1回パーマを掛けてもらっている。		



事業所名 : 認知症高齢者グループホーム ゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い、利用者の好むものを取り入れたメニューを提供している。月に1回程度弁当を頼む事ある。調理の下ごしらえや、トレーや箸の用意、盛り付けや食器拭き等の作業をお願いして、その都度感謝の言葉をかけている。	食材の買出しは週3回、当番の職員が、冷蔵庫内のストックを見ながら利用者の希望を取り入れ調理している。下ごしらえや、盛り付け、食器拭き等を5人の利用者が手伝っている。1ヵ月毎に法人の栄養士が栄養バランスをチェックしてくれている。ホットケーキや団子の手作りおやつ、天ぷら、すいとん、餅が利用者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一食に10品目以上「ま・ご・は・や・さ・し・い」の各栄養素が摂取できるように気をつけ、またお粥や刻み食など利用者さんの状態に合わせて提供している。食事量、水分量のチェックをして、脱水や低栄養に注意している。同事業所の特養の栄養士に、月1回メニューの確認とアドバイスを頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きの声かけを行い、介助が必要な方には歯ブラシ等の準備や、義歯洗浄を行い口腔内の清潔保持に努めている。毎月口腔ケア研修に参加、年2回利用者連れて行きドクターに口腔内の状態を診てもらいアドバイスを頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間とトイレでの排泄を基本としているが、利用者の状況に合わせて対応している。排泄チェック表から、排泄の間隔を把握し、定期的な声掛けやトイレ誘導で、パット確認・交換等、出来ない部分を支援している。介護拒否のある利用者さんには、声掛けを工夫しさりげなく交換し、汚染状態の罪悪感を取り除くように努めている。	排泄チェック表により利用者の排泄間隔を把握し、声掛けや誘導によりトイレでの排泄を支援している。布パンツで自立1人、リハビリパンツ8人で、夜間のおむつ利用は1人いるが、ポータブル利用者はいない。リハビリパンツの大パット利用から小パットに改善した例がある。介護拒否がある方には声掛けや居室での交換など、対応を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に野菜・果物を多く使用し食物繊維を取り入れるようにしている。ヨーグルト・牛乳等乳製品も毎日のメニューに取り入れて提供し、便秘予防に努めている。便秘症状の強い方には、オリゴ糖や処方されて薬を服用して頂き排便コントロールを行っている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム ゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2~3回入浴して頂いている。出来る限り希望があれば対応している。入浴を好まない方には、声かけの工夫や時間を置いて再度、誘う等タイミングを図りながら対応している。	入浴は月曜~土曜日の午後2時~5時、利用者は週2~3回入浴している。入浴剤は使用せず、時々菖蒲湯などで季節感を味わっていただけるようにしている。入浴を拒否する利用者はいない。入浴は職員とのコミュニケーションの場であるとともに、好みの歌を歌うリラックスタイムにもなっている。入浴時に利用者の皮膚等の観察(変化の有無等)を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は、各居室の他にそれぞれ居心地の良い場所(小上がりや、廊下のソファ、玄関イス等)でゆっくり休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で服用している薬について確認するように努めている。薬の変更時には、用法や副作用等注意すべき事を、連絡ノートや申し送り確認し職員全員が把握して、看護師・医師への経過報告と、相談で薬の調整等の指示を受けて様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力量に合わせ、洗濯物干し・洗濯物たたみ・食事の準備・片付け等の作業を行って頂いている。また自分で塗り絵の道具を出して行ったり、季節の花を生けたり、水を代えたり自発的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防で、通院以外の外出する機会は減っている。ドライブは(花見・紅葉狩り)車から出ない形で行う予定。ゆい通りの裏の畑に花畑があり、季節ごとに違う花が咲くため、時々花を見に散歩に出かけている。玄関先に椅子を置いており、プランターに花やイチゴ等を植え癒しの場所になっている。	コロナ禍前に比べると外出の機会は減っているが、隣にある花畑や玄関先のプランターの花を見ながらの日光浴や散歩、花見・紅葉狩りのドライブ(車から降車しない)で楽しんでいる。「ニギニギ体操」「足踏み」「口の体操」、職員手作りの数字や地図記号のゲームなど、屋内での活動を工夫している。職員は外出の代わりに、アイデアと工夫で利用者を楽しませている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理の困難な方が多く、施設で金銭管理を行っている。1名は5千円程度を自分で管理している。家族からの入金の際は出納帳を確認して頂き、預かり証(領収書)を発行し渡している。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム ゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、職員が電話の取次ぎをしている。その他にも家族と、連絡を取る際には、可能な限り電話で交流できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集う食堂や廊下に季節の花や室内装飾、カレンダー等を飾り、季節を感じられる環境を作るようにしている。各居室に温度計を設置し、必要に応じてエアコンや加湿器・除湿器等で温度湿度の調整を行っている。また北側の居室と、廊下の窓からは、田んぼや花畑・山が見え季節の移り変わりを感じる事が出来る。	明るく開放的な食堂兼ホールは、食卓と椅子やテレビが使いやすく配置され、壁には季節を感じられるコスモスの貼り絵と「猿蟹合戦」の装飾があり、利用者はそれぞれ居心地の良い場所に座っている。エアコン・除湿機・加湿器により快適に空調が調整されている。廊下の窓から花畑や田んぼなどの風景を見ながら季節との会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者さんを同じ席にし、過ごしやすくしている。廊下に長椅子、玄関にも椅子を設置し好きな時に外を眺めたり、数人で会話をしながら日向ぼっこを楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、アルバム、家族の写真、カレンダー・塗り絵の作品等が置かれている。寝具類は自宅で使用していたものを持参して頂いている。家具の配置も利用者が動きやすいように設置している。	備品としてベッド、タンスがあり、衣装ケースと寝具は利用者が持ちこんでいる。利用者が使いやすいように家具が配置されており、家族写真やカレンダー、ぬいぐるみ、時計、塗り絵などが壁に飾られ、エアコンにより空調も気持ちよく調整されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、居室やトイレの場所や、タンスの引き出しに中身がわかるように表示している。転倒が考えられる方には、離床センサーマット、夜間には居室に足元ライトを使用し、転倒防止の対策をしている。		